

# 玄海3号における プラグングデバイスの変形について

2019年7月25日  
九州電力株式会社

原子力事業者は、法令及び安全協定上報告の必要はないが、関係者間で共有化することが有益な原子力施設の保守・運営情報を「保全品質情報」として原子力安全推進協会の原子力施設情報公開ライブラリーに登録しています。

玄海3号機の第14回定期検査において、この保全品質情報に該当する事象が1件ありました。

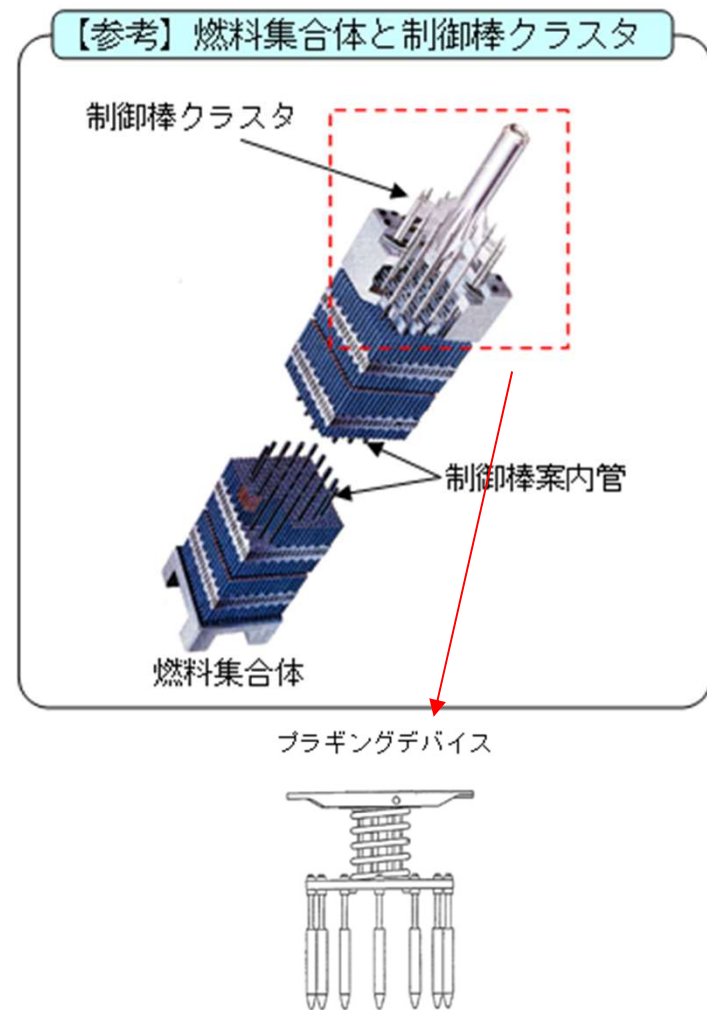
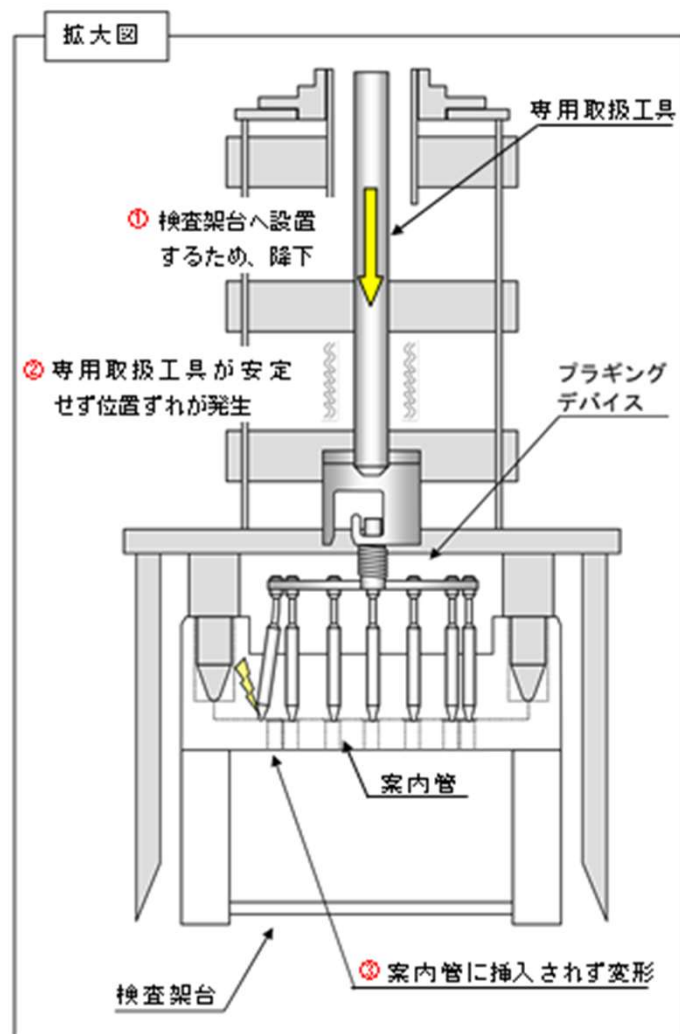
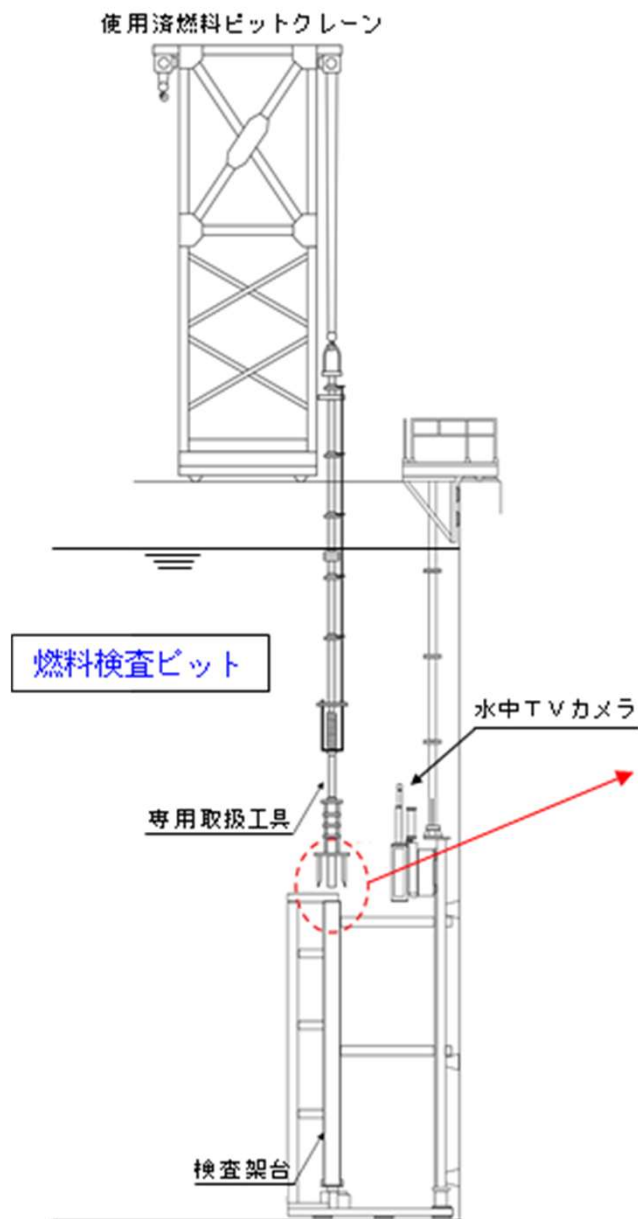
玄海3号機第14回定期検査のうち定期事業者検査「制御棒クラスタ検査」において、プラグングデバイス※を工具を用いて検査架台へ設置しようとしたところ、一部が変形したことから、予備品と交換しました。

対策として、プラグングデバイスの設置の際は、工具の安定性を確認することや操作を慎重に行うことを作業要領書へ反映するとともに、作業員に周知徹底しました。

なお、本件は、安全上の問題はなく、国などの関係箇所への連絡対象ではありません。

※制御棒クラスタ等を挿入しない燃料集合体に挿入し、燃料集合体に流れる冷却水の流量を調整するための栓。

# (参考)



プラグングデバイスの役割：  
制御棒クラスタ等挿入しない燃料集合体に挿入し、燃料集合体に流れる冷却水流量を調整するための栓

当社は、引き続き、安全確保を最優先に、今後の安全・安定運転に万全を期してまいります。